



つしよい!

いちのせき
協働ニュース

2016年10月

vol.9



つくるよ 笑顔のおいしい 大原を

大原まちづくりの会

会長：菅原 五三男（いさお）

問い合わせ先

電話：0191-72-2282

大原市民センター

大原地区は室根山や原台山（はらだいさん）、砂鉄川などの自然環境に恵まれた地域です。春は春日山の桜、夏は砂鉄川のアユ釣りとだるま祭り、秋は山吹城址の大銀杏（おおいちよう）、冬は大東大原水かけ祭りと、四季折々に歴史と文化を感じることができます。古くは宿場町として栄え、昔から地域で助け合いながら暮らしてきたまちです。

希望と夢に満ちた笑顔の絶えないまちに

「大原まちづくりの会」は、平成26年11月、各自治会をはじめ地区内の各種41団体を構成員に設立しました。

昨年度は、地域住民へのアンケート調査と構成団体によるワークショップを開催しながら地域を見つめ直し、どのような地域になっていけばよいか、地域住民がともに考え「大原地域づくり計画」の策定に取り組みました。

「つくるよ 笑顔のおいしい 大原を」をまちづくりのスローガン（将来像）に掲げ、大原地区を思い、地区に暮らす一人ひとりを思い、希望と夢に満ちた笑顔の絶えないまち「大原」を願い、地域づくりを進めていきたいと考えています。

いそがず、あわてず、しっかりと

将来像の柱には5つの目標を定め、目標ごとに専門部を設置しました。チーム会議を重ね「なにを」「いつ」「どのように取り組むか」「住民をどのように巻き込んでいくか」などの話し合いが活発に行われ、地域住民による地域づくりが動き出しています。

チーム会議と並行してリーダー会議や全体会が開かれ、情報共有と意見交換をしながら事業実施に向けた取り組みが行われています。

菅原五三男会長は「現在は長期と単年度の実施計画を検討しています。『いそがず、あわてず、しっかりと地域づくりを進めよう』を合言葉に計画の

共有を図りたいと思います。また、新笹ノ田トンネルと国際リニアコライダー（ILC）の早期実現を望んでいます」と語ってくれました。

地域協働推進員の熊谷繁弘さんから一言

生まれ育った大原は、大好きな場所です。大好きな大原地区が元気をなくしていく様子にさみしい思いでいっぱいでした。「何もしないで現状のままでは、何かをしてこのままのほうがいい」という思いが地域づくりへの参加の始まりでした。

地域づくりは、結果を残すだけではなく、目標に向かって継続的に話し合い、取り組むプロセスが大事だと考えています。

地域づくりが、まだまだ地域全体に認知されていないと感じるところもありますが、話し合われた内容を全戸配布の会報などを通じて情報共有し「みんなでやってみよう。やってみよう」という気持ちを育てていきたいと思っています。

地域みんなで考え、話し合い、大原地区にあった地域づくりをサポートしていきたいと思っています。



歴史・文化・自然専門部チームの史跡現地確認調査の様子



地域協働推進員の熊谷繁弘さん

各地域の協働の取り組み



真柴まちづくり協議会

会長：熊谷 昭三

問い合わせ先
電話:0191-26-2523
一関市民センター真柴分館
(真柴コミュニティーセンター)



平成28年8月11日開催 青空市とフリーマーケット

地域の思いを地域づくり計画に

協議会発足後、複数回にわたり役員会、策定委員会、専門部会等を開催し、地域住民全世帯へのアンケート調査と地域懇談会を経て『真柴まちづくり計画』を策定し、平成28年3月4日『真柴まちづくり計画書』として、一関市に提出しました。

平成28年度として以下の事業を計画しています。

- 総務企画部：区割りマップ作成、歴史研修、文化祭開催
- 生活安全部：鍵掛け実施啓発、地域危険個所の点検等パネル設置
- 健康づくり部：歩け歩け運動、スポーツ吹矢、100歳体操、他
- 農産業部：青空市とフリーマーケット（夏、秋各1回）
- 子育て生涯教育部：世代間交流イベント、挨拶運動（パネル設置）

真柴地区の概要は

世帯数：1,753戸

人口：5,053人

行政区：5区（真滝12区、13区、14区、15区、東中田区）

協議会はどうして設立されました

これまで長年運営されてきた『真柴振興会』を解散し、新たに真柴の地域づくりを目指し、平成27年6月14日に設立総会が開催され『真柴まちづくり協議会』が発足しました。

真柴地区の住民が主体的に調査や話し合いを重ね、自立と協働により課題を解決していくことにより、活気があり、豊かな住みよい地域を目指すものです。

事務局職員の小野寺徹さんを紹介します

平成27年9月1日から、事務局職員として、真柴コミュニティーセンターに勤務している小野寺徹です。

真柴まちづくり計画を実現するため、地域の方々から情報を収集し、地域の皆さんと共に住み良いまちづくりが出来るよう、『真柴まちづくり協議会』に貢献したいと思っています。



各地域の協働の取り組み



油島なのはな協議会

会長：武田 慶一

問い合わせ先
電話:0191-82-4371
油島市民センター



平成27年12月12日 地域づくり講演会の様子

油島の象徴「なのはな」

油島なのはな協議会の名称の由来は、昔から中尊寺へ菜種油の奉納を行ってきた油島の歴史から来ています。

油島の地は、明治8年に上油田村と下油田村が合併し油田村に、明治22年には油田村と蝦島村が合併し油島村となりました。

昭和43年に閉校した油島中学校の校章には菜の花があしらわれ、校歌には「見よ 中尊の 法灯の ゆかりも深き 油田の郷」という一節もあることから、地域づくりに菜種栽培を推進しています。

このことから、地域協働体の名前も「油島なのはな協議会」となりました。

より多くの住民参画を

油島地域づくり計画を決定し、事業に取り組むにあたり、「地域資源活用」「地元学研究」「コミュニティ活性」「地域環境」「地域安全」「福祉健康対策」の6つの部会を設置しました。各部門ではスペシャリストの地域住民が中心となり、より多くの地域住民の声を聴きながら地域づくりを進めて行きます。

7月には全体会を開催。部員の委嘱状を交付し、その後第1回目の部会を行い、部長・副部長・書記の決定、事業実施年度等を検討しました。実施事業については、平成27年度に行われたワークショップで出たアイデアをまとめた事業計画を基に、「これはすぐにでもできそうだったね」「これはもっと計画をしっかりと練り直さねっけね」など、各部門とも、真剣に話し合いが行われました。今後は6つの部会がそれぞれに具体的な話し合いを進め、油島の地域づくりに取り組んでいきます。

「ゆ・し・ま」な地域づくりがスローガン

油島なのはな協議会は平成27年3月に発足しました。当協議会は25の地域団体から構成されており、平成27年度は31名の理事を中心に住民アンケート調査やワークショップを行い、「(ゆ)豊かで、(し)親しみのある、(ま)ますます住みよい地域づくり」をスローガンに油島地区の様々な課題の解決に向けて地域づくり計画の策定を進めてきました。

平成28年5月の総会で油島地域づくり計画を決定し、平成28年度は6つの専門部を設置し、事業実施に向けた検討を進めています。



奥玉振興協議会

会長：藤原 幸夫

問い合わせ先
電話:0191-56-2950
奥玉市民センター



平成28年8月23日 第1回ワークショップ(あらたま談義)の様子

奥玉振興協議会の活動紹介 (イベントを通じたコミュニティの活性化)

奥玉振興協議会では、平成28年度で第44回を数え地域の夏祭り・盆踊りとして定着している「奥玉ふるさとまつり」や、芸術の秋に開催している奥玉地区の文化祭「奥玉地区民芸大会」など、住民総出のイベントを実施しています。また、平成26年度からは一関市地域おこし事業を活用して、音楽・アートと地域力のコラボレーションをテーマとした「とびがもり水車音楽祭」を実施し、その活動を発信しています。

明るく豊かな地域であり続けるために…

今年度は地域協働推進員を配置し、地域づくり計画作成に本格的に取り組むこととし、奥玉地区全住民を対象にアンケート調査を実施しました。そのアンケート結果を基に、ワークショップ(通称:あらたま談義)を行い、地域づくり計画作成のための地域課題の整理や解決に向け、話し合いが行われました。

あらたま談義は、各自治会から選出された計画作成検討委員、生涯学習推進員や公募による参加者等を交えながら、これから12月まで計画作成に向けて検討・協議が重ねられていきます。

地域協働推進員の村上達男さんから一言

霊峰室根山を仰ぎ、弓手川の清流に育まれた「豊潤璞玉の郷」奥玉は、これまでも諸先輩方が多くの課題に対し、地域の英知を出し合い解決に向け取り組んできた地域だと誇りに感じています。

現在、全住民アンケート調査の結果を集計・分析していますが、若者を中心に将来への展望や期待の声も多く寄せられていることを実感しています。

地元自治会の事務局を長年担当してきた経験も活かし、社会状況の変化や大きなうねりの中で、奥玉振興協議会に求められている取り組みや活動を力強く支援していきたいと思います。

『白熱の あらたま談義 稲実る』(村上達男)



いちのせき市民活動センター

NPO・行政・企業・地域の情報発信により
アイデアと出会いの機会を創ります

一関の協働の定義は、継続的な話し合い…

現在、地域の話し合いには、いちのせき市民活動センターや市の職員などが入ってまとめ役を務めるなどして進めています。

今後は、地域の方々自らが、話し合いの場そのものをうまくリードすることが必要となる場面が増えていくこととなります。なぜ話し合いが大切なのか?それは、一関市の協働の定義が継続的な話し合いだからです。

課題解決や目的達成のためには、アクション(行動)が優先という考えもありますが、アクションの前に、話し合いを重ね、ゴールを共有しておかないと、たどり着く先が違ったり、後戻りすることになりかねません。

1 話し合いの手順

実りある話し合いにするためには、順番が重要です。話し合いを始める前から、順番を意識しましょう。

- ① 共有(何のために集まり、この会議で何を議論し、どこまでの成果を創り出すのか?)
- ② 発散(参加者全員の思いのたけを洗いざらい話す)
- ③ 収束(発散の中から議論の重要な部分を見つけ、整理し、まとめあげる)
- ④ 共有(参加者の考えをまとめ、合意形成する)

この順番で進めるのですが、ついついやってしまうのが相手の"発散"を避けることです。良い意見は受け入れられますが、悪い意見は受け入れたくない心のバリアが発生するため、"発散"を避ける傾向があります。しかし、参加者は、自分の意見や気持ちを聞いてほしいのです。また、主催者としても、"発散"の中から背景や経緯を受け止め、論点となる部分を抽出します。合意づくりは、"発散"から"収束"のステップで!

2 議題の作り方

話し合いで一番大切なのが、議題の作り方です。話し合いという結論や合意形成を急ぎがちになりますが、参加者全員が納得して終わるためには、焦りは禁物です。せっかく議論して物事を決めたとしても、納得を生み出せず振り出しに戻ってしまえば、時間の無駄です。まずは、何のために集まり、何を議論して、どのような姿になりたいのか?つまりは、話し合いのゴールイメージ(目的と目標)を創り出しましょう。そのゴールイメージをもとに、どのように議論を深めていくかを検討することで、各回の議題も定まり、さらには、会議日程も定まります。

Point

会議は、毎日が合意形成ではありません。決めるためには、決めない会議があって、様々な議論をしてから最後に決めるのです。合意形成のためには、決めない会議から決める会議へ向けた順番で。

3 場の作り方

議題と同じく準備が必要なのは、話し合いをするための場を準備することです。場の準備で、一番大切にしたいことは、安心して議論に参加できる場を作ること。一部の人のしか意見が言えないような場、議論が深まらないような場を用意してしまうと、せっかくの議題も台無しになってしまいます。議題と話し合う場づくりはセットで考える必要があります。

場の準備は、話し合いの始まりで、しっかりと目的と目標を共有し、参加者のスタートラインを揃えること。そして、建設的な話し合いができるようにグラドルールをみんなで共有し、みんな平等な立場で参加している雰囲気を創り出すことです。話し合いのグラドルールとは、「人の話をさえぎらないようにしよう」「相手を否定しない」「言いだしっぺがやれ!は言わない!」などを予め共有しておくことで、参加者全員が公平な場で議論することができます。

ちいき 地域 そだて ひと 人 そだて

地域づくりをサポートしています
<http://www.center-i.org/>

いちのせき市民活動センター

一関市大町4-29 ののはなプラザ4階
TEL 0191-26-6400 FAX 0191-26-6415

いちのせき市民活動センターせんまやサテライト

一関市千厩町千厩字町149
TEL 0191-48-3735 FAX 0191-48-3736

一関市地域協働推進計画

第1回

自治会青年部リーダー 一関市の苦勞



つづく

一関市では、地域の協働によるまちづくりを支援するための方策等を取りまとめた一関市地域協働推進計画を策定していますが、今号から、連載でポイント解説とマンガでわかりやすく計画をお知らせします。

登場人物



一関 ヒロシ
この地区の自治会青年部長



ヒロシの妻・息子



今年こそは盛大な夏祭りをと意気込んでいたヒロシさんですが、会議の出席者が少ないなど、先行きが心配なようです。近年、地域の行事など、役員などの担い手の確保が難しくなっているという声が聞かれます。

その背景にはどのようなことがあるのでしょうか？

平成26年3月に市が策定した「一関市地域協働推進計画」の中から、地域でどのような環境変化が起こっているのかを抜粋しました。

地域の環境変化

少子高齢化、人口減少、核家族化、ひとり暮らし世帯の増加

例：地域活動の参加者の減少、自治会等の役員の担い手不足、役員の高齢化、世代を超えた話し合いをもつことが難しい、地域での助け合い活動の拡大、震災の経験などから防災対策など地域ぐるみの取組が必要。

市民参画意識の向上

市民活動やボランティア参加意識の向上、市政への参画意識の向上。

個人主義、価値観の多様化

地域内のつながりの希薄化、ニーズの複雑化、高度化、誰かがやってくれるだろうという消極的な姿勢。

このように地域を取り巻く環境は大きく変化しています。どのような地域づくりが望ましいのか、考えてみるきっかけがもたれません。

みなさんで是非、考えてみましょう。